



システム共同化でコスト削減／ フレイルチェックで健康都市を

蛇川 浩議員 (市議会公明党)

情報システムの最適化と広域・共同化で行政コスト大幅削減を

質問 ①パッケージソフト化からさらに一歩進め各システムの広域での共同化、クラウド化を進めるべきだが検討実績は。

②各システムの広域・共同化によるメリット、デメリットは。

市長 ①近隣5市で構成する多摩北部都市広域行政協議会で共同化を協議した。今後、新たな方策が生じる可能性もあるため国や民間の動向等を注視する。

②メリットは、共同利用による割増効果で、デメリットは、現在の市民サービスが変更となる可能性があることなどである。

データヘルスと小平フレイルチェックで健康都市を目指そう

質問 ①データヘルス計画に基づく事業の今後の取り組みは。

②薬剤師会等との協力で飲み残した薬を本人が再利用する医療費削減の仕組みがでないか。

③仮称小平フレイルチェックを採用すべきだが考えは。

市長 ①早期発見、重症化予防に重点を置いた事業を実施しており、今後研究していく。

②28年度から介護予防リーダーの養成を開始しており西東京市の事例も参考にフレイルチェックの取り組みを検討していく。



資源物処理施設建設／障害者雇用と精神障害者施策の充実

橋本久雄議員 (緑の党こだいら)

市民の声を無視した3市共同資源物処理施設新設の影響は

質問 ①分別収集の対象となっている硬質プラスチックの5割が資源物化されず、ごみとして焼却されている現状への対策は。

②施設はつくらず、ペットボトルと容器包装プラスチックを今までどおり小平市リサイクルセンターで処理した場合、どういう問題が発生するか。

市長 ①イベント等での3Rの理解促進、パンフレットの全戸配布等による分別の徹底について周知に努めてきた。

②3市の安定的廃棄物処理体制が構築できない可能性がある。高木の維持管理のあり方

市役所での障害者雇用拡充と精神障害者施策の充実

質問 ①なぜ身体障害者しか雇用してこなかったのか。

②精神障害者に適用されない事業で対応可能な事業は。

市長 ①市民サービスの提供者として、窓口等で市民と直接応対し、一定の判断をしながら業務を行うことが求められるため。

②心身障害者福祉手当、自動車ガソリン費補助、福祉タクシー利用料金補助があるが、いずれも財政上の課題がある。

【掲載分以外の質問項目】
○街路樹の剪定や電線にかかる高木の維持管理のあり方



小平市の農業、農地について／ 小平市の交通安全対策について

川里春治議員 (政和会)

小平市の農業、農地について

質問 ①都市農地保全支援プロジェクト事業について、補助金の交付状況と今後の考えは。

②体験農園を初めとした観光農業に対する取り組み状況は。

市長 ①27年度は防炎シャッター設置補助、28年度は防災兼用農業用井戸設置補助を交付した。今後は、農地の持つ多面的機能

を發揮し、市内農地の保全を図るための重要な事業であることから、農家に対し周知していく。

②体験農園開設時に補助を行うほか、観光農業協会作成の直売所マップに体験農園等が

小平市の交通安全対策について

質問 ①歩道を自転車が行き交う際、歩行者とすれ違うときの事故について、市の対策は。

②小・中学生の自転車の乗り方について、啓発活動の内容は。

市長 ①交通管理者等と連携を密にし、路面標示等で注意喚起を行い、歩道は歩行者優先であることを啓発活動に努めていく。

教育長 ②長期休業日前等の機会を捉え、交通安全指導の中で実施等している。また、保護者会等でも啓発を行い家庭と連携した交通安全指導を進めている。



小川駅西口駅前の整備は小平らしく／市民が集う場をふやそう

日向美砂子議員 (生活者ネットワーク)

小川駅西口の駅前整備をよりよいものにしていくために

質問 ①高層ビルありきでない方法の可能性はあるか。また、再開発ビルの高さ抑制のために市が行ったことは。

②市民への周知や意見聴取、合意形成はどうか。

市長 ①駅前広場が整備されていないことに加え、老朽化した建築物が密集し、オープンスペースも確保されておらず、新たなぎわいの拠点づくりも期待されているため、都市計画道路整備だけでは課題解決は難しい。工事費高騰による計画案見直しの際に、市民広場の創出を提案

し、高さの抑制が図られた。②都市計画決定に至る過程で、説明会等の開催や計画案の縦覧、意見書の提出など、住民の意見を反映するための手続が義務付けられている。

市民が集い学ぶ場を知恵と工夫でもっとふやそう

質問 ①公民館や地域センターなどの貸し部屋の予約開始を3か月や半年前に延ばせないか。

②大学や事業者と連携して場を借りる仕組みをつくれぬか。

市長 ①地域コミュニティ施設の方角性を検討する中で、さまざまな側面から検討していく。

②可能性について研究する。



保護者の教育負担の現状／ 給食費の無償化

吉瀬恵美子議員 (日本共産党小平市議員団)

義務教育にかかると教育費の軽減について

質問 ①市立の小・中学校において、授業料と教科書以外の保護者の年間の負担額は。

②義務教育にかかる保護者負担の現状への受けとめと対策は。

教育長 ①おむねの平均額は小学校で、1年生が7万8千8百円、2年生から5年生が5万6千8百円、6年生が8万3千7百円。中学校で、1年生が17万7千円、2年生が7万3千2百円、3年生が14万3千7百円。②ノートや鉛筆等個人で所有し使用するもの、学校給食費や修学旅行費等個人に帰するもの

は保護者に負担をお願いしている。経済的に就学困難と認められた世帯には就学援助制度により学用品費等を支給している。

学校給食の無償化について

質問 ①給食費の未納の原因は。

②未納の家庭への市の対応は。

教育長 ①給食費は食材購入のみに充てられていることや未納が給食全体に影響すること等、仕組みを十分に理解してもらえないことだと認識している。

②経済的理由で就学困難と認められる世帯には、就学援助制度等により給食費が支給される。引き続き制度を案内していく。



女性の就労を応援／子どもの権利を保障する保育について

さとう悦子議員 (生活者ネットワーク)

女性の就労を応援するために

質問 ①男女共同参画推進条例の認知度が2015年現在で3・4%だが、上げるためにどうするか。

②男性が家庭や地域で活躍するための施策は。

③仕事と家庭両立の意識と環境づくりのための取り組みは。

市長 ①小平アクティブプラン21概要版を配布し、ホームページ等で周知している。

子どもの権利を保障するために担保されるべき保育について

質問 ①小平市の待機児童数は。②市立保育園の保育理念は。

③市立・私立保育園共通の保育の質のガイドラインが必要と考えるが見解は。

市長 ①本年度は合計89人。②子ども一人一人を大切に、保護者、地域にも最善を尽くして、安心できる保育園を目指すことと定めている。

③市立・私立保育園の情報交換を通して、保育の質は確保できている。共通のガイドラインの作成は考えていない。



▲観光農業への取り組み (体験農園)



▼体験農園のパンフレット



誰もが暮らしやすいまちづくり／ 障害者差別解消法に基づいて

平野ひろみ議員 (生活者ネットワーク)

誰もが暮らしやすいまちづくりの実現に向けて

質問 ①地域包括ケアシステムを支える認知症施策を担う人材の資質向上のためできることは。

②介護者支援の検証と課題は。

③一人一人の生活を支える包括的生活支援についての考えは。

市長 ①認知症支援リーダーと認知症サポーターの養成講座の実施及びそのフォローアップにより資質の向上に努めていく。

障害者差別解消法に基づく合理的配慮を進めるために

質問 ①市の障害者雇用の3か年の実績は。

②身体障害者のみの採用選考を見直し、知的・精神障害者も受験可能にする考えはないか。

市長 ①26年度1人、27年度2人、28年度の任用はない。

②採用の拡大については他団体の採用の状況を注視しつつ、職務内容やサポート体制の整備の可否等を研究していく。